

受領 令和4年3月1日 14時27分

通告番号 (11) 1/2

令和4年3月1日

読谷村議会
議長 伊波 篤 殿

読谷村議会議員
城間 真弓 印

一般質問通告書

第515回読谷村議会定例会において次の事項の質問をしたいので、会議規則第61条第2項の規定により通告いたします。

質問要旨	答弁を求める者
<p>1 いのち最優先の災害時対応を！トンガ大噴火による津波警報、津波注意報から見えた課題と対策とは。</p> <p>(1) 津波警報・注意報が出された時の村の対応とは。</p> <p>(2) 他市町村の対応はどうだったのか。</p> <p>(3) 避難所となっている各自治会の連帯は。</p> <p>(4) 今回は津波警報・津波注意報が出されたのは夜中の12時を過ぎてからであり、村民の皆さんの多くは寝ている時間帯に起こりました。また、今回の件は地震を体感することなく津波警報や、注意報が出されたため、万が一のことが起こった場合は多くの方が被害に合う可能性が高い。今回のような自然災害から住民の命を守るため、今後の対応や対策とは。</p>	
<p>2 長引く新型コロナ感染症が社会にもたらした課題と対策とは。村民の命、暮らしに本気で向き合う取り組みを。</p> <p>(1) 今回の第6波は村内においてもこれまでにない陽性者数が出ることにより、様々な現場で起こっている問題や課題について。</p> <p>ア コロナの影響により休園した保育園数と、休園期間の平均日数は。</p> <p>イ 小・中学校で学級閉鎖になった件数と、学級閉鎖中の子どもたちの学びの補償とは。また、この時期だからこそ得られる子どもにとって大切な経験や体験が、コロナ禍の中で奪われていることへの影響をどのように捉えているか。</p>	

質 問 要 旨	答弁を求める者
<p>ウ 幼児のマスク着用についての村の考えと、小・中学生の長引くマスク生活をめぐり、差別的な環境に苦しむ児童がいることや、心身にも及ぼす影響なども把握しているか。</p> <p>エ 長引く自粛生活による高齢者や障がい者、独居老人の皆さんの心身のケアと、コロナ禍の中での生きがいづくりをどう考えるか。</p> <p>(2) 今、読谷村がやるべきなのは、日々のPCR検査でコロナ陽性者の数を追いかけるのではなく、長引くコロナ禍によって社会的に追い詰められている村民の方々を、一刻も早くどう見つけ、手を差し伸べられるかだと思うが、見解を伺う。</p>	
<p>3 新型コロナワクチンについて</p> <p>(1) 20代～30代の摂取率と12歳～19歳の摂取率は。</p> <p>(2) 読谷村が独自に取り組んでいるIT業者を利用し、20代～30代へ個人携帯にワクチン接種を推進するメッセージをおくる事業について、その期間と、対象人数、また月に何回ぐらいのペースでメッセージをおくったのか。</p> <p>(3) 5歳～11歳の新型コロナワクチンを接種する意義と必要性は。</p> <p>(4) ワクチン副反応疑い報告書より、接種後の死亡者数と重篤者数は。またそのうちの国の救済認定が認められたのは何人か。</p> <p>(5) 日本の総人口の8割がコロナワクチンを接種している現状で、これまでにない感染爆発が起きている現状をどう捉え、ワクチンの効果が県民・村民にとってどのように表れたのか。その根拠となるデータ等はあるのか。</p> <p>(6) ワクチン接種後の健康不安について、しっかりと村独自の相談窓口が必要だと考えるが、その方針は</p>	
<p>4 「子どもの貧困対策事業」において、私が3年に渡って要望してきた『子どもの居場所』について、12月議会の答弁で「新たな居場所づくり」を展開していくとのことでしたが、その後の進捗状況と、その内容とは。</p>	